

64 くらさわやくし どう 倉沢薬師堂 (附 ぐでん せきぞうやくし によらいゆうぞう か やしら お じ ひつほうのうはいがく 宮殿・石造薬師如来立像・加舎白雄自筆奉納俳額)



指 定 市有形文化財 平成10年 4 月30日
 所在地 前 山
 所有者 貞 祥 寺



間口8間の五間堂（正面の柱間が5つ）で、中世密教系寺院本堂の基本的構造を持つ。建築手法としての特色は、彫刻をふんだんに取り入れて、極彩色を施した点にあり、18世紀中期の建築の特色をよく示すものである。

室町時代後期から江戸時代中期にかけ、佐久地方の名棟梁として知られた小泉家のフィナーレを告げる大作で、吉右衛門泰亮による明和5年(1768)の造営である点に意義がある。

薬師堂内陣正面には仏像などを納める棟・柱つきの厨子である宮殿が安置されており、薬師堂と同じ吉右衛門泰亮の造作で安永6年(1777)の作品。彫物師は江戸の高松新次郎である。

宮殿床下には厳封された秘仏が納められており、昭和57年(1982)11月の宮殿基礎工事の際、一度だけ公開された。身長約130cm、頭部が大きく四頭身ほどであること、肩の張りに厚みがあること、使用石材が近世以降ほとんど使用されていない軟らかい石質であることなどから、その製作は中世にまで遡れるものと推定できる貴重なものである。

薬師堂外陣には櫻厚板2枚を継いだ縦74cm、横365cmの俳額が掲げられている。加舎白雄自筆の俳額としては現存する唯一のもので、寛政2年(1790)3月奉納。俳額には佐久の俳人100人が名を連ねている。白雄は江戸中期の蕉風中興の俳人。上田藩士。

参考文献 明治28年「倉沢薬師堂取調事項上申書」
 平成7年「佐久市志 美術・建築編」
 矢羽勝幸「佐久の俳句史」